

〈研究ノート〉

生涯学習と地方自治体の活性化Ⅱ

芳 賀 玉 樹

目 次

1. 地方自治体における生涯学習の事例
2. ライフサイクルにおける生涯学習の着想
3. 生涯学習に有効な体系的食事健康法
4. 地方自治体の活性化のテーマと推進の例
5. 生涯学習と目標達成システム

はじめに

今回は、生涯学習と地方自治体の活性化について、その背景と必要性、生涯学習の概要、生涯学習の推進と地方自治体の役割について述べた。今回は更に、事例をまじえて、生涯学習を具体的に推進するための指針となる考え方・コンセプトを提案したい。

1. 地方自治体における生涯学習の事例

地方自治体における事例として、東京都生涯学習審議会の答申「これからの社会を展望した東京における生涯学習の総合的な振興方策について」をケースとしてとり上げていきたい。

(1)「東京における生涯学習振興の基本的な考え方」

高齢化の進展など社会の成熟化や学歴社会の弊害、技術革新、情報化、国際化などの背景の中で、生涯学習が求められている。

生涯学習とは、各人が自発的意思に基づいて、学習の内容・方法を自ら選択しながら、一生を通じて行う主体的な営みであり、生涯学習振興の目標は、都民が生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことのでき、その成果が

社会において適切に評価されるような、豊かな生涯学習社会を築いていくことである。東京における生涯学習を総合的に振興していく為には、政治・経済・文化の中心、大学やカルチャーセンターなど多様な学習の機会や場の存在、国際化、高齢化の急速な進展など東京の特性を考慮し、

- ① 平等な学習機会の提供
- ② 学習内容の充実
- ③ 学習の場の充実
- ④ 生涯学習を支援する体制の整備
- ⑤ 学習成果の還元・活用の支援

の五つの方向で振興を図る必要がある。

(2) 東京都の基本的役割と区市町村及び民間機関・専修学校・各種学校・大学等との連携

生涯学習社会の実現を目指す為、家庭・地域及び学校、民間学習事業者、企業、行政などの生涯学習関連機関がそれぞれの役割を担うとともに、相互に連携・協力していくことが必要である。東京には、多様な生涯学習関連機関が存在することから、都はこれらの主体性を尊重しつつ、情報提供などの支援をして連携・協力を図るとともに、広域的、先導的の事業を、また、特に学習の機会や場に恵まれない人、情報化、国際化、高齢化、人権、環境などの現代的課題、高度な体系的・継続的学習などに対応した施策を展開していくべきと考える。都は、都民の生涯学習を支援するために、

- ① 平等な学習機会の提供
- ② 学習内容の充実
 - ア. 現代的課題の学習への支援
 - イ. 職業にかかわる学習への支援
 - ウ. 高度な体系的・継続的学習への支援
- ③ 学習の場の充実
 - ア. 家庭教育の充実
 - イ. 学校の一層の変革

- ウ. 社会教育施設等の整備・充実
- エ. 青少年の学校外活動の促進
- オ. 活力ある地域づくりへの支援

④ 生涯学習を支援する体制の整備

- ア. 都における推進体制の整備

- イ. 「生涯学習ネットワークセンター」の設置

の方向で施策を展開し、振興を図っていく必要がある。

さらに、区市町村及び民間機関・専修学校・各種学校・大学等との連携を、情報提供、連絡組織の設置などにより、図っていく必要がある。

(3) 「都民の学習成果の地域社会等への還元・活用」

学習成果を生かしたいという都民の意向が高まっている。学習成果を地域社会等に生かすことは、個人にとっては学習の励みになり、社会にとっても有意義なことである。このため、学んだ成果が社会の中で適切に評価されると共に、自らの意思により希望する場合には、その成果を生かすことが支援していくことも重要である。

還元・活用を促進するための方策として、

- ① 機会や場の開拓
- ② 情報の収集・提供、相談の充実
- ③ 研修・交流の場の整備
- ④ 評価と資格付与制度の整備
- ⑤ 「生涯学習ボランティアセンター」の機能の整備

を図ることが必要である。

(4) 「今後重点的に取り組むべき施策」

■ 行政の生涯学習化の推進

生涯学習を総合的かつ効果的に振興していくためには、都のすべての部門が生涯学習の観点を取り入れるなど、「行政の生涯学習化の推進」が必要であり、そのため、「東京都生涯学習推進計画」（仮称）を策定するとともに、職員に生涯学習についての啓発などを行う必要がある。

■ 「生涯学習ネットワークセンター」の設置

都民の生涯学習を総合的に支援していくためには、多様な生涯学習関連機関とのネットワーク化が必要である。そのため、

- ① 学習情報の収集・提供、相談
- ② 指導者や講師などの人材情報の収集・提供
- ③ 都民の学習ニーズ及び評価などに関する調査研究
- ④ 学習プログラムの開発
- ⑤ 先導的・モデル的事業の実施
- ⑥ 生涯学習のための指導者の養成・研修・交流
- ⑦ 区市町村や民間機関・専修学校・各種学校・大学等との連絡・調整
- ⑧ 啓発事業の実施

などの機能を持ち、多様な生涯学習関連機関とのネットワークの核となる「生涯学習ネットワークセンター」を設置することが重要である。このセンターを設置するに当っては、機能を重視することとし、現在の生涯学習情報センターの機能を拡充して整備することが望ましい。

■ 区市町村及び民間機関・専修学校・各種学校・大学等との連携

(1) 区市町村との連携の促進

区市町村の主体性を尊重しつつ、連携・協力を図るための連絡組織を設置する必要がある。さらに生涯学習情報のネットワーク化、指導者の養成・研修、学習プログラムの提供、職員の研修など、区市町村を積極的に支援していくことが望まれる。

(2) 民間機関・専修学校・各種学校・大学との連携の促進

生涯学習に関する連絡組織を設置することが必要である。この連絡組織においては、リカレント教育推進の検討、行政情報の提供、単位の累積評価などに関する調査研究を行うことが必要である。

■ 学校の一層の変革

生涯学習社会の実現のためには、学校の果たす役割が非常に大きいことから、学校の一層の変革が重要である。

(1) 学校教育の充実

生涯を通じて学び続ける意欲を育てたり、社会の変化に主体的に対応できる能力を育成するなど、生涯学習の基礎づくりのための教育内容や方法の改善、生徒一人ひとりの特性、進路などに応じた教育を推進するため、新しいタイプの高校の設置などに取り組んでいくことが求められる。

(2) 地域における生涯学習の拠点化

地域における身近な学習の場として、学校の施設や機能の開放などを積極的に進めることが必要である。

■ ボランティア活動の支援

学習成果の還元・活用の一つとして、ボランティア活動は重要である。都民が学んだ成果をボランティア活動の中で生かすことができるよう、区市町村や民間機関・専修学校・大学等と連携・協力し、支援することが必要である。

(1) 情報の収集・提供の充実

地域社会等で活動できる具体的な機会や場の情報を収集・提供することや、人材登録を行い、講師や指導者を求めている都民や団体などに紹介できるよう情報の収集・提供の充実を図ることが大切であろう。

(2) 相談の充実とコーディネーターの養成・研修

学んだ成果を生かしたい人と、それを求めている人とを適切に結びつけるための相談やコーディネートできるようなコーディネーターの養成・研修を行う必要がある。

(3) 「生涯学習ボランティアセンター」の機能の整備

生涯学習の拠点としての「生涯学習ネットワークセンター」の機能の一部として、「生涯学習ボランティアセンター」を整備する必要がある。

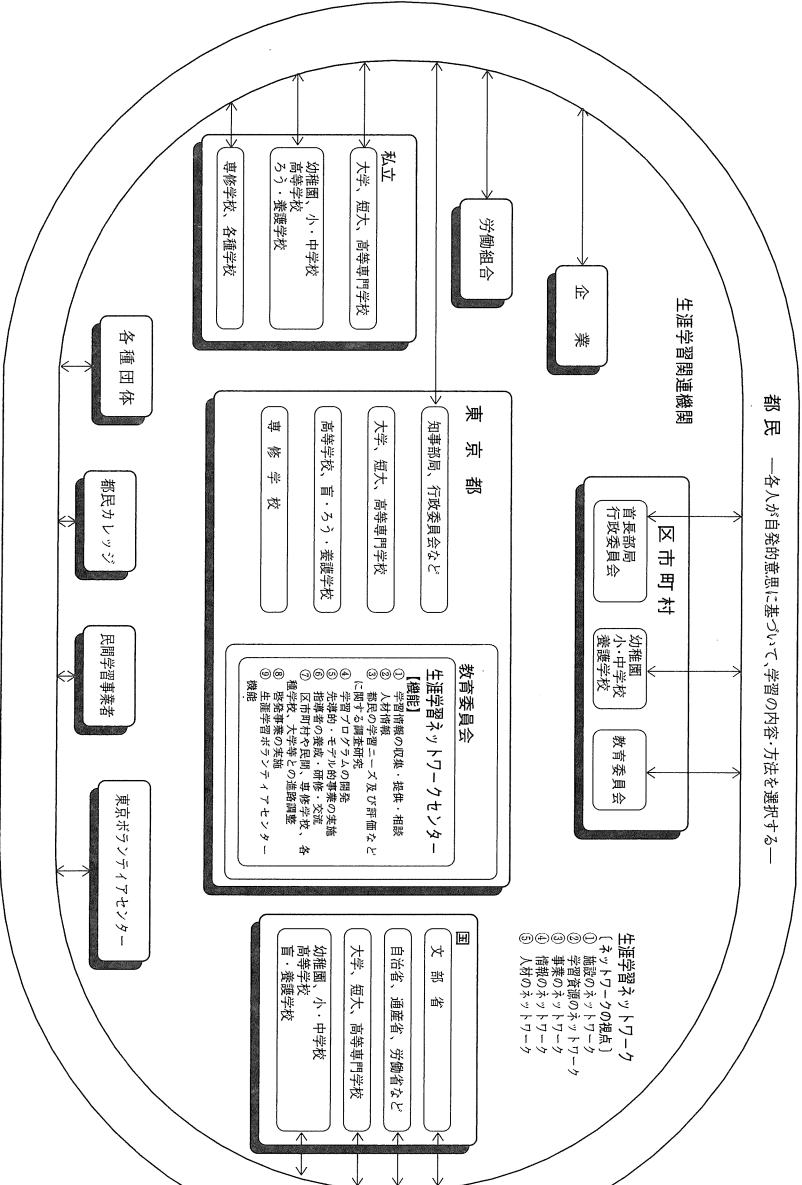
以上をまとめて、生涯学習審議会答申で提言された「生涯学習ネットワークセンター」のイメージを表わすと次の参考図のようになる。

生涯学習社会の実現

都民が生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が社会において適切に評価されるような社会



都民 一人が自発的意思に基づいて、学習の内容・方法を選択する



(注) この図は、東京都生涯学習審議会が提言された「これからの社会を展望した、東京における生涯学習の総合的な振興方策について」(東京都生涯学習情報センター平成6年6月発行の参考図を引用したものである。

2. ライフサイクルにおける生涯学習の着想

人の一生（生涯）を家族との関係で考えてみよう。

人は親を中心とした家族の中で生まれ、成長していく。そして、成長がピークになり、成人して、独立し、結婚し、夫婦となり、夫婦が新しい家庭を築き、子供を育て教育し、一方、年をとった両親や祖父母の世話をしながら、子供の成長と巣立ちとともに夫婦の生活に戻り、充実した老後を送る。人以外の生物界でも同じように誕生から成長そして世代交代、死というサイクルをくり返している。

人は、この生物界と異なる所は、学習を意識して記録・情報として残し蓄積する事にある。人は、家族を形成し、誕生から成長そして死に至るまで一生涯、お互いに協力し、相互啓発しながら家族関係を築いていく。勿論、人以外の生物でも家族関係を築いている動物も見られるが、人以外の動物は、一般の人が理解できる情報では記録に残さない。

さて、人が、家族や社会の関係で、どのような成長発展の段階（ステージ）をたどるか、一般的なケースで考えてみよう。

別表「ライフサイクル LC 各段階における生涯学習の着想」（注 2）としてまとめることができる。この別表は、① 人生の各段階（ステージ）を 9 つの期にわけ、② 各サイクル期における特徴 ③ 社会生活・仕事・家庭生活 ④ 生涯学習での着想のポイントと分類してみた。この各段階で最も大切な期は

(1) 胎児期である。それは、親の胎内にあるが、生命は発生し、自分の意志よりむしろ親の学習、生き方による環境によって影響を受けるからである。そしてこの親の胎内にあって、親の作る又は経験する環境によって、永い人生の基礎が作られる。特に教育・学習的な面では才能萌芽が見られる。この時期は、右脳（の開発）に良いと云われる音楽・芸術、人とのコミュニケーションを胎教として良い影響を与えることを意識して、行動し、総合的な学習を体験すれば、効果は大きい。

次に大切な時期は

(2) 乳幼児期である。

この時期は親と接する時期が長い、最新の脳生理学によれば、実は、大きな可能性を持ったものすごい潜在パワーを秘めているといわれている。この時期は、また、右脳が発達する時期なので、型にはめずに伸び伸びと、本人の興味があることや、才能が見られる分野を中心にどんどん先行して学習を進めていくと効果的である。例えば、外国語の会話は右脳を使うので、この時期に学習するのは良いといわれている。そして、音楽や芸術やイメージで感性をみがくのも積極的にとり入れると良い。

- (3) 幼児後期は幼稚園に入園し、公式な集団生活を体験する。この時期もまだ右脳を開発させる余力は充分にあるので、右脳に良い学習を中心に学ぶように心がける。特に自宅、親や家族と一緒に環境では、音楽（明るいクラシックやジャズ、ラテン音楽などが良いと云われている）絵画や工作ものづくりそして軽いスポーツやダンスなども良い。
- (3) 少年期は、昨今、社会問題化しているいわゆるいじめが大きな問題となっているが、これは、左脳を酷使する受験競争に起因しているといわれている。従って、右脳を使う教育・学習とスポーツやサークルそして、個人が持つ才能〔個性〕を尊重する総合的な学習をとり入れると有効であろう。
- (4) 青年（春）期では、アルバイトを含めて、仕事と関わりを持つ。この時期は、青春まっただ中で、自己の人生の目標を確立する大切な時期となる。遅くとも、この時期に自分の人生の目標が確立されないと、後向きか他力本願の人生になりかねない。従って、人生の目標を確立した基盤の上にある生涯学習は、大層有効となろう。
- (5) 自己形成期は、就職という人生の中でも大きなイベントのステージにある。就職する場合の着想は、「人生の目標」に基盤をおけば、成功し、楽しい人生を送ることができる。就職するのに安定性だけを求める若者の将来ははたして楽しいものであろうか。

もっと人生を前向きに、大きな可能性を求めても良いと思われる。この時期の学習も人生を楽しむ右脳に良い学習も有効であろう。

また、求人する企業も個性をうまく引き出すことで、今の我国の暗い不

況を吹きとばすことに貢献できると思われるが。

海外の先進国では、個性を尊重し、個性を伸ばす学習がとり入れられ、国際性も豊かで経済成長も順調で、我国のような長期の不況の嵐は吹いている例は見られない。

(6) 自己成長期

この期は、人生の大きな転換期となる結婚と子供の誕生があり、自分が主役となる新しい家庭を築くことになる。

学習も夫婦は勿論、新しく生命が誕生する胎児の将来がかかっているので、右脳に良い環境作りと学習内容を心がけて、時間も有効に活用する。

(7) 自己確立期

このステージになると地位も向上し、仕事も責任ある事が多くなる。また健康には最も注意する時期でもある。

本人は勿論、子供も成長するので、家族全体の教育・学習を考え、健康を考えたスポーツや戸外（アウトドア）のレジャーも充分楽しむことが考えられる。スポーツによって、管理職としての体力をつけ、メンタル面も強くする。そして、医食同源といわれるように食事・口にするもので体系的食事法をとり入れて、健康に配慮する。

(8) 成熟期

最も円熟する時期、仕事も充実し地位も向上する。一方では、肉体的には、最盛期を過ぎるので、健康面での配慮が必要であろう。今迄の様に、勢いにまかせて、つき進むことから、一歩さがって、熟慮した行動が必要になる。この時期は、生涯学習を活用する機会が多くなる。

(9) 完成期

いわゆる定年を迎え、ビジネス生活では、最終ラウンドになる。現在の経済環境では、定年後の収入は万全とはいかないので、趣味と実益（収入）を兼ねた生活設計を見直す時期であろう。

スポーツなどの健康法は、前の(8)成熟期に引続いて実行する。実はこの時期は前期と共通のスポーツと健康法が有効である。

以上人の生命が発生する(1)胎児期から、人生の最終ラウンドに至る完成期までの生涯学習の着想のポイントを見て来たが、このライフサイクル各段階の中で、生涯学習にとって、大切な時期は(9)完成期と(1)胎児期、(2)乳幼児期であろう。それは、この3つの時期は、いわゆる集団生活・社会生活との縁がうすくなるので、その生活をカバーするために生涯学習(文化・スポーツなど広範囲の)の機会を活かすことが最も大切になってくる。

ライフサイクルLCの各段階における生涯学習の着想(図)

LC各段階	LC各段階・サイクル期に於ける特徴	社会生活・仕事・家庭生活	生涯学習での着想のポイント
(1) 胎児期 (親の胎内)	親の胎内に居て自己才能の萌芽有り最も大事な時期 親の体験・環境(左右)が親(胎内)の分も責任有り 親と接する時間が永く親の影響が強く出る	親の影響が最も強く、胎教が大切親は胎児と共に 生きている 親の影響は強いが、この時期は才能が最も伸びる ので興味・関心の有るものを積極的に引き出す、イ メージの感性を磨く。 自分の事は整理整頓出来るようにしつける。 自分で成る事を見守る機会を身につける【石田自用己実現の欲求 自分才能ある分野はなんでも先手先手でチャンスを与え る活動でスポーツ・文化面の才能を磨く、人に役立つ大切さも養 育】	親は自己だけでなく、胎児の事を優先しこの時期 が最も重要な基礎的(音楽・芸術・英語・絵画・テ ニス)学習 個性は尊重し育成する事で才能は開花する。
(2) 乳幼児期 (0才~2才)	幼児園や集団生活を経験する。個性も出てくる 親を育てる環境作りで大きく伸びが 親・学校生活の影響の阻害(阻害) 親から独立する意識が出てくる 【小学校へ 入る】	自分の個性の学習・体験で母体立上げの力を身につける。 【ウチハツの情報交換会・交流会を主催し、体験範囲が広がる。 ボランティア活動】に積極的に参加し、交際範囲が広がる。 自分の個性の学習・体験で母体立上げの力を身につける。 【ウチハツの情報交換会・交流会を主催し、体験範囲が広がる。 ボランティア活動】に積極的に参加し、交際範囲が広がる。	受験は基礎を踏使するからパソコンをとり右脳を 活性化させ音楽・芸術・イメージ画像・スポーツを 積極的に楽しむ事を考える。 右脳を活用し才能開花すればはいじめはなくなり可能 個性・才能を育てる事により国際的に通用する人が育つ。 若者と高齢者の交流で人生の有用なヒントが得られる。 資格取得の準備の学習(含む情報システム)
(3) 幼児後期 (3才~5才)			
(3) 小学生期 (6才~11才) (12才~15才)			
(4) 青年期 (16才~20才位) (前期含む)	親の影響から独立して行く。同世代の友人を作る 自己の人生の目標を確立する。 将来の進路を決める。目標の有無で差が出る。	自分の人生の目標を確立出来る自己啓蒙の学習を積極 的に取り入れる。(例:定年後に活躍出来る文章(道面) 人生の目標達成のプログラム)の学習を考える。 資格取得の準備の学習(含む情報システム)	
(5) 自己形成期 (20才~25才位)	成人の仲間になり、自身の価値観や面のライアス スタイルを確立する。 独立した住所を構え社会人としての自覚が出る。 進学・就職の選択・進路を意思決定する能力が育つ。	専門能力を高め社会・仕事の中で自己の役割を整理し、能力的 に自己成長する時期。結婚し家庭を築き子供にも思われる。 胎児への学習環境を配慮する責任有り。 地域社会での活躍が期待される。	
(6) 自己成長期 (25才~35才位)	新規の友人を持ち交友の幅を広げ、人脈作りにより注力 力する。家族集団のライオンスタイルを確立する。 昇進・転職や独立も検討する最初の機会となる。	専業主婦の知識・情報が得られるような研修に参加する。 強い専門分野と人脈のネットワークが確立される と将来独立できる基盤となる。	
(7) 自己確立期 (35才~45才)	仕事も充実し、地位も向上し趣味や自己啓蒙にも注 力する。家族集団のライオンスタイルを確立する。 40才は人生の転換点、健康に充分配慮した生涯設計 が楽しめるスポーツ、戸外の余暇を確立し習慣化する。	将来に備えた資格取得、生涯学習のリーダーの資格取 得の学習。スポーツで体力とメンタルを充実させる。 管理職は体力と気力とリーダーシップが重要 体系的健康法を確立して趣味と実益を兼ねる。 スポーツ・趣味のサークルを主催し生涯学習の基礎を築く。	
(8) 成熟期 (45才位~60才)	最も円熟する時期。同世代友人の集まりを考える。 将来に備えた計画や収入対策も必要になる。 家庭では子供の成長を指導する時期。一方、 年老いた両親の同居・介護を考慮する時期。 子供の教育に費用とエネルギーを必要とする。	仕事も盛り返す。盛り返すの時期になり後継者を育てる。 社内でも、地域でも活動の地位を確立活動の場がある。 リストラ対策として資格取得を企業で導く。ノ ンハク職を持つには幅広いスキル(マネジメント等) 人脈を作るために、地域交流会・異業種交流会・趣味・スポ ーツのサークル等を作るが既存のものに積極的に参加する。	
(9) 完成期 (60才以上)	定年を迎える(年金生活)の収入と友人が大切 一生の健康対策が望まれる。病気がならない工夫 体系的食事法と適度のスポーツに参加し、若い人 とも積極的に交流する。	趣味・スポーツのサークル人脈を作り積極的に参 加する。(生涯学習) 若人や親類の人と積極的に交流し生活の知恵のト ピクを狭める。(資源環境問題)リ(サイクル等)	

この図は、松本孝博著、「自己発見法」市井社 1993年10月発行を参考にして、著者がまとめた。

3. 生涯学習に有効な体系的食事健康法

「健康維持と食生活上の留意点」

今や、我国は長寿国として、世界のトップに立ったが、一方高齢化社会の到来で、老人医療費増、介護、ボケが大きな社会問題となっている。また、生涯学習を有効にし、自己啓発を行うのにもその土台となるビジネス生活、家庭生活をおくるにも、健康あつてのことだと思われる。そこで、我々の日常生活、特に食生活でどんなことに注意を払ったらよいかを考えて健康に役立てたい。

別表の「体系的食事健康法」を参考にして、主な病気対策に備えれば、心身とも健康で長生きし、生涯学習・自己啓発の土台ができる。この「体系的食事健康法」こそが、生涯学習・自己啓発活動を有効にする最高のシステムエンジニアリングである。最近では、医学の進歩で、平均寿命も伸びているが、本当に心身とも健全であるかといえば、決して健全であるとは断言できなくなっている。

生活環境の変化や自然治癒力チ、ネリヨクに対する無理解からくる薬の乱用により、対応が複雑化している。そして、ストレスや成人病は大人は勿論、子供にまで及び、現代っ子の健康と寿命、出産率の大幅低下が心配されている。

この原因の一つとして、食生活にも起因していると云われる。グルメブームやカロリー万能の肉と甘味をとりすぎる偏ったバランスを失った食事が誤ってとり入れられたことによる。この様なバランス感覚を失った食事をとり続けると人の血液は濁ってしまい万病のもとになる。自然治癒力を有効に活用し、血液を浄化し、心身とも健全な生活を送るには、バランスのとれた食生活が基本となる。そして毎日の食事では、素材に換算して一日に30品目以上の食材を使った食事をとり、ライフサイクル各段階では食事の献立・内容を各段階（期）にマッチした工夫が必要である。

例えば、育ちざかりでは、動物タンパク、植物タンパクの比率を高くし、成熟期や完成期では、植物タンパク（レシチンを含む大豆や豆）を多くとり、ビタミンE（老化予防）やビタミンCの多い植物・食材を多くとる心がけが必要であろう。食べ方の一例として、動物性たんぱく質を少量でもとる時は、その

数倍の野菜類特に根菜類とできるだけ海産物（主に海草と小魚）も併用することがバランスのとれた食事法である。成人病の権威者である著名なドクターも、健康法の秘訣は1に食事法、2に適度の運動、3、4がメンタル面、5に健康的な民間療法とまずトップに食事をあげているが、この背景には、環境と自然治癒力が重要な役割を果たしていることは論をまたない。そこで、主な病気別〔予防が大切〕の食事法と民間療法を「体系的食事健康法」〔別表〕（注3）としてマトリックス表にまとめたので、参考にされたい。この食事健康法の基となっているのは、大自然と農業である。従って、この農業の再生と活性化を考えた「地方自治体の活性化」のテーマ例と推進の例を次にとり上げていきたい。

「体系的食事療法」〔別表〕

食事療法 民間療法例	主な 疾病対象	消化器関係			肝 眼 病	循 環 器	呼 吸 器	ス ト レ ス	耳 中 炎	鼻 蓄 膿 炎	咽 扁桃 炎	喉 口 内 炎	肥 満	腎 臓	糖 尿 病	成 人 病
		胃腸 一般	胃潰瘍	便秘痢												
青海苔 海藻 Ca 海産物		○														○
蓮根 (ハス) ごぼう ニンジン		○				○		○	○	○			○	○	○	○
大根 山芋 玉ねぎ にんにく		○	○						○	○			○		○	○
ねぎ にら 青汁 パセリ セロリ キャベツ		○				かぶの葉		○	○					○		
しそ 梅 (干) 梅エキス おおばこ はこべ よもぎ (とくだみ) ハトムギ はぶそう しいたけ		○	○	○		○		○	○	○	○			○	○	カキドオシ (連鎖草)
赤松葉 柿の葉 (ビタミンC) 柿の実 南天の実 りんご 天然果実酢						○			○							タラノキ
小麦胚芽 + Ca 大豆 (レシチン) 黒豆 豆もやし 胡麻 (ビタミンB他) そば しじみ 酵母 コンニャク 植物油		○	○			○				○	○			○	○	○
										黒				○	○	○

米と豆類は国際的に見ても最良の食品であり、玄米・良質ヌカ・黄粉を食べると健康体を維持できると云われる。美味しいご飯は水と食器・炊き方にカギがある。健康上、水を直接飲食用する場合は、煮沸し使用すると安全である。調和のとれた体系的食事と適度のスポーツ・趣味・楽しみはプラス思考と併せて健康・長寿に役立たせるところができる。

注) この別表は、著者、鈴木安昭、芳賀玉樹「経営高度化のための指導啓蒙事業報告書」181ページ。社団法人日本機械工業会 1991年3月発行を参考にし、著者がまとめた。

4. 地方自治体の活性化のテーマと推進の例

(I) 地方自治体の活性化のテーマ例

「農業の付加価値向上計画と生き生きふるさとづくり」

第一段階〔目的の確認〕

1. 健康でゆとりのある生活を送りふるさと地域の活性化に役立つグループ活動・ボランティア活動を取り入れた生涯学習を推進する。
2. 中高年（定年後）でも収入と健康を安定させる受け皿創り、進路の指針づくり
3. 健康で長寿をまっとうできる健康法とスポーツの活用、同窓会などネットワークの活性化

第二段階〔委員会の形式によるプロジェクトチームの推進と教材の作成〕

第三段階〔テーマづくりの例〕

1. 定年後の進路づくり（各年代別）
 - (1) チーム活動・演習で定年後の進路をさがす。
 - (2) 成功例のシステムづくりを行う。
 - (3) 健康法と成人病への対応、健康創りのためのスポーツ振興
『老人医療費の自治体負担の大幅削減』
 - (4) 地元地域への協力的体制づくり
2. 農家の経営の安定化、所得倍増
新食料法の施行の影響と対応
 - (1) 産地、生産品の特長づくり
 - (2) 新しい販路づくり、トータル販売ネットワーク作り
例. 通信販売など消費者への直接販路づくり
 - (3) 米、等生産品の高付加価値化と販路づくり
例. 弁当・おにぎり、給食、あられ、かき餅、せんべい等
米の付加価値向上製品の開発
 - (4) 後継者育成と加工製品の共同化
 - (5) 地元地域への協力的体制づくり

3. いきいきふるさと（地方自治体）つくりへの支援、歳入のプラス

- (1) 企業誘致、教育機関の誘致協力活動
- (2) 経営資源（人・物・土地・情報・資金）つくりへの支援活動
- (3) 同窓会等のネットワークの活用
- (4) ボランティア活動のシステム化→定年退職者・主婦の生涯学習、小集団活動の活性化
- (5) 地域の特性を伸ばす産業の育成への協力

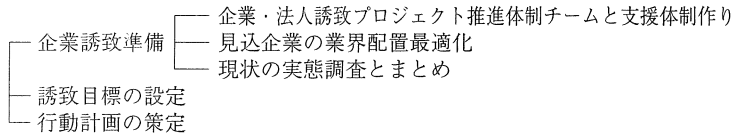
第四段階 以上のプロセスの教材の作成

『教材は生涯学習の基本として活用できる。』

(II) 地方自治体の『企業・法人誘致及び農業育成企画』の推進の例

第一段階 情報収集、行動計画策定『計画策定成功の為の教材作成委員会の推進』

- 1. 企画の再検討・具体化
- 2. 誘致目標の設定、企業数、業種・業態および特性把握
- 3. 目標達成の為の実行計画作成とシミュレーション
- 4. テーマの発掘および解決課題の策定、目標達成に必要な課題のテーマアップ



5. 企業誘致成功のための『目標達成モデル』の構築

第二段階 企業・法人、教育、研究機関等の誘致行動計画の実施

- 1. 企業・法人誘致プロジェクト推進
- 2. 有力企業・法人誘致のリストアップと体系化
- 3. 有力企業・法人誘致の最適訪問行動計画・スケジューリング、訪問活動
- 4. 有力企業・法人のニーズの確認と誘致の為の最適作戦の展開、説明会セミナーの開催

5. 有力企業・法人への誘致企画書の作成と説明
6. 有力企業・法人への誘致の体系的提案と現地への案内、有力企業・法人との契約

第三段階 企業誘致と既存企業・法人との調和；企業・法人成長支援・育成

1. 合併事業の推進（JA等とメーカーの生産・物流システムの支援）
2. 業種・業態の研究とノウハウの開発、最適企業立地、業種・業態分布の最適化
3. 既存企業の活性化、成長育成、共同事業の推進・支援
4. ソフトテクノ・団地、物流センター・学園都市など共同施設の支援
5. 将来有望なハイテク分野の企業立地、複合化、産・官・学の推進体制確立
例）新農産業、コンピュータ、エレクトロニクス、半導体、FA、ソフト、バイオテクノロジー、環境・リサイクルハイテク産業、健康ハイテク産業、新エネルギー、宇宙システム
6. 開発型・ベンチャー企業の育成・支援策、Uターンの助成
7. 地域活性化との相乗効果プロジェクトの推進、フォローアップ
8. 自営・農家業等の所得倍増の支援（農産物品の高付加価値化、生産・販売・物流）

第四段階 以上のプロセスの教材作成・マニュアル化

5. 生涯学習と「目標達成システム」

国際化、情報化の進展に伴い、生涯学習と自己啓発（自己の才能を伸ばし、充実した人生を送る）のチャンスは、誰にでも、どこにいても訪れる。

しっかりした目標と強い意思。ヤル気を持つ人は、生涯学習のチャンスを活用し、自己啓発に成功する。

(1) 高度情報社会、国際化社会と生涯学習・自己啓発の活用

情報社会、国際化の社会の今日では、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・電波・マルチメディア・ネットワークなどの総合的メディアにより、国内はもとより世界の情報が、豊富にかつスピーディに時々刻々と誰にでも入手し活用できる

ようになっている。そして、ヤル気・意欲があり、目標を持つことができれば、生涯学習・自己啓発・能力開発のチャンスはいつでもつかむことができる。自己啓発が今後益々重要なテーマとして脚光を浴びていく背景として、

- (1) 高齢化社会、人生50年から人生80年と大幅に寿命が延長し、ビジネスマンは、停（定）年後20年以上をどの様にしてすごして生きていくか、高齢化社会の到来にそなえて、生涯学習の役割は大きい。
- (2) 週休二日制の普及、年休の増加により個人レベルの余暇時間即ち生涯学習・自己啓発の為の有効時間の大幅増加
- (3) フレックスタイム制の普及により、有効時間帯の活用の余地は大きくなる。
- (4) 情報システム、通信システムの進歩普及とパーソナル化など高度情報社会を支えるハイテク技術の進歩により。
- (5) 在宅勤務… スモールオフィス・ホームオフィス（SOHO）の大幅な普及が見込まれる。
- (6) 在宅学習も普及していく。
- (7) ビジネス社会でも個人レベルでも、インターネットにより国際化は益々進展している。
- (8) ライセンス（資格取得）が永びく不況にそなえて益々注目されている。
- (9) 大脳生理学が脚光を浴びると共に能力開発の技法が盛んになっている。
- (10) 特に右脳の活用が重視され、個性の進展（海外では、個性が尊重される）と長寿社会における総合的健康法が見直される。

(2) 生涯学習・自己啓発の体系的アプローチ

生涯学習・自己啓発によって人生の目標達成を果たすには、次の図の『生涯学習と目標達成システム』を参照されたい。

このシステムで最も大切なものは「目標の設定」である。この〔図〕は、目標が大きいとか、生涯学習・自己啓発のレベルが高い場合には、ガイドラインとなる。また、目標のターゲットが大きい場合には事前準備・計画性が大きなカギを握っている。

「目標の設定」… 目標を持つことは、生涯学習・自己啓発の中で最重要事項

であり、かつ人生においても本来は重要事項である。

国際的ビジネス社会でも家庭でも成功する経営者・経営担当者・ビジネスマンは必ずこの「目標」を持っている。

「目標」については、

(1) 種類内容

例えば、ライセンス「資格を取得する。公的資格例、公認会計士、税理士、司法書士、宅地建物取引主任、情報処理1種、2種など。

(2) 期 間

短期1年位、中期3年位、長期5年以上

(3) 性 格

最終的目標、中間目標

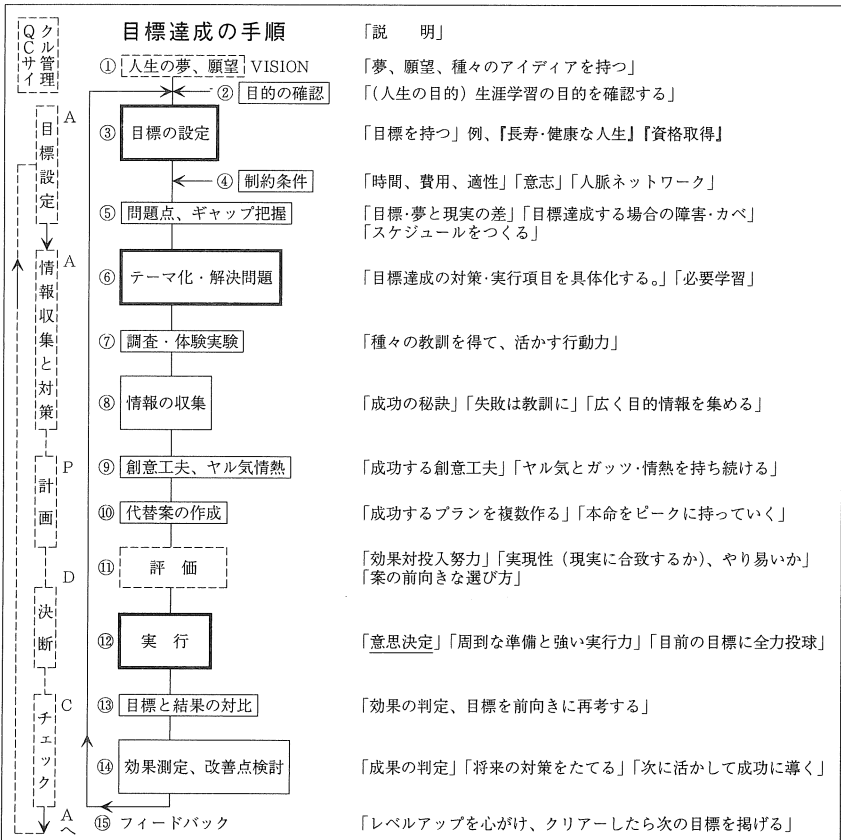
(4) 集団の目標

① 個人的目標……主に身近な目標で、狭義の自己啓発に関するもので、個人の成績やタイトル、ライセンス取得。

② 組織的目標……会社・法人の部門・課、チームなど組織の目標である。個人的目標と組織的目標は必ずしも一致するとは限らないが、ベクトル（方向）は一致した方が組織のパワー、エネルギーは大となる。

尚目標は以上の例以外でもスポーツや健康の分野も対象となり重要である。次に、「生涯学習と人生の目標達成システム」〔図〕（注4）によって、そのすすめ方を説明していこう。

「生涯学習と人生の目標達成システム」〔 図 〕



- (1) 夢や願望は人生を楽しくする特効薬の役目をする。
- (2) 人生で大切な事は目標である。目標が確りしていれば人生は楽しく、生涯学習にも役に立つ。
- (3) 成功を期すならば、何をしたいかという「生涯学習」の目標をもって臨むと、うまくスタート出来る。目標の例として「資格取得」「健康で長寿な人生を全うする。」「人の役に立つボランティア活動のリーダーになる。」等が考えられる。
- (4) 制約条件は、「自分で出来る事」と「時間的余裕」であろう。また、強い意志も味方になる。
- (5) 問題点、ギャップ把握は夢・願望・目標と現実の差で目標達成の乗り越えなければならない障害・カベである。スケジュールをたて進行管理をすることは生涯学習を推進するのに効果的である。
- (6) テーマ化は何をすれば目標が達成出来るかの具体的推進方法・カベの破り方である。
- (7) 調査・体験実験は実際のモデルを作り実験・シミュレーションしながら種々な体験をする。失敗は教訓として活かせる。
- (8) 情報の収集は人の体験が活用できる。友人・知人との情報交換が有効であろう。
- (9) 創意工夫・ヤル気・情熱はどんな逆境でも前向きに挑戦する心構えが成功につながる。
- (10) 代替案の作成はただ一つの案・やり方しかできないリスクよりも複数の計画案を用意する事によりチャンスが広がる。
- ◎ 実行は用意周到に行い、成果の効果測定と、次につながる改善の心がけがより大きな成果・成功に導かれる。
- ◎ 学んだ事は生涯学習ノウハウ集として纏めると目標は達成できる。【目標達成システム】はガイドラインとして活用できる。

(注) この図は、伊藤陽三編著「実践経営組織論」経林書房1993年4月発行234ページを参考にして、著者がまとめた。